



クロガモ幼鳥 推定♂

全身黒色で、くちばし基部が黄色い. 羽ばたき時に頭を下げるのもクロガモの特徴. 腹部が淡色をした幼鳥. 貝塚市沿岸で確認されるのは珍しい.

貝塚市二色の浜 2019 年 12 月 24 日、藤村雅志さん撮影

自然遊学館だより

2020 WINTER

No.94



2020.2.8 発行 貝塚市立自然遊学館

目 次

*ネイチャーリポート
メダカの話 ・・・・・・・ 森 彩華・・・1
汽水ワンド周辺の陸生生物調査2
・・・・・・・ 岩崎 拓・湯浅幸子・・・ 3
*行事レポート
親子海釣り体験・・・・・・・・・・ 山田浩二・・・ 5
海藻おしば作り ・・・・・・・ 岩崎 拓・・・ 6
*泉州生きもの情報
千石荘でオオキトンボを採集 ・・・・・・ 岩崎 拓・・・ 7
二色の浜に打ち上げられた
クラゲエボシ ・・・・・・・・・・・ 山田浩二・・・ 8

自然遊学館から再度のお誘い "生涯学習"として一緒
に始めませんか? ・・・・・・・ 高橋寛幸・・・ 9
*調查速報
貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査 15
・・・・・・・・・・・・鈴子勝也・・・ 10
*ホームページ
自然遊学館 HP-昆虫 4 · · · · · 岩崎 拓 · · 11
*寄贈標本 ・・・・・・・・ 13
*スタッフ日誌 ・・・・・・・・・・・・・・・16

メダカの話

この話の主人公は、ほとんどの日本人が 知っている魚、メダカです。学校や自宅で 飼育している人も多いかと思います。成魚 になっても全長 3cm~5cm ほどの可愛らし い淡水魚です。ひれの形が性別で異なり、 オスは背びれに切れ込みがあり、臀びれが 平行四辺形、メスは背びれに切れ込みがな く、臀びれが三角形、とよく言われていま すね(図1)。メダカは流れの緩やかな水辺、 例えば川や水路、ため池、田んぼで暮らし ていますが、淡水と海水が混ざる汽水域、 そして海にいることもあり、私は岬町の海 で捕まえたことがあります。食性は雑食で すが、どちらかというと植物系の食べ物が 好きなようです。野外では動物プランクト ンや藻類などを食べています。





図 1. 津田川のミナミメダカの オス(上)とメス(下)

メダカの仲間はアジアにのみ分布して おり、世界で30種以上が知られています。 婚姻色でオスだけ体が真っ黒になる種類 や、体が透明で体長 2cm に満たない種類など様々です。日本のメダカは最も北に分布する種類ですが、2012 年にこれまでのニホンメダカはミナミメダカとキタノメダカは介けられました。キタノメダカは兵庫県丹後・但馬地域以北の日本海側と青森県、ミナミメダカは京都府以西の日本海側と、太平洋側では岩手県以西の本州、四国、九州、琉球列島に生息し、大阪府の野生メダカはミナミメダカのみです。2種のメダカの遺伝子は大きく異なります。見た目はうろこの模様やオスの背びれの切れ込み具合などが違いますが、見分けるのは少し難しいです(図 2)。



図 2-1. 近木川のミナミメダカ



図 2-2. 兵庫県日本海側のキタノメダカ

メダカの名前の由来は「目が高い位置に ついているように見える(目高)」ですが、 この「メダカ」という名前はかつて主に関 東地方での呼び名でした。それでは昔の大 阪でメダカは何と呼ばれていたのでしょ うか。『メダカの方言』という本で調べて みると、江戸時代後期には「うきた」「こ まんじゃこ」など、昭和初期から中期の泉 州では「めめじゃこ」「こめじゃこ」など と呼ばれていたようで、「細かい/小さい 小魚」を意味します。遊学館のある貝塚市 には「たわらきんぎょ」という方言の記録 もあります。ちなみに和歌山県海南市にて 2017年から開催されている「黒江めった祭 り」の「めった」もメダカの方言です。メ ダカは、日本で最も方言の数が多い生物と 言われています。身近な魚ではあったもの の経済価値があまりなく、全国共通の呼び 名が必要なかったためです。しかし現在で は理科教材や図鑑で「メダカ」として知れ 渡り、方言は消えつつあります。ぜひ他の 地域の「メダカ」の方言も調べてみてくだ さいね。

ところで、ペットショップで売られているメダカは、いわゆる普通の見た目のメダカの他に、色とりどり、形も様々ですよね。これらは観賞用の飼育品種メダカですが、生物の種類としては野生メダカ2種のどちらかと全く一緒です。朱色のメダカやラメのような銀色のうろこが輝くメダカ、ヒやのような銀色のうろこが輝くメダカなど、錦鯉やが通常の倍以上長いメダカなど、錦鯉や金魚とは違った美しさがあり近年とてもなります。しかし、私はそのような飼育品種メダカを野外で捕まえたことがあります(図3)。恐らく誰かが逃がしてしまったのでしょう。飼育品種メダカが放流された場合、野外では目立つため天敵にすぐに食べられてしまいますし、各地域のメダ

カが長年かけて築いてきた地域固有の遺伝子が失われる「遺伝的攪乱」につながります。売られている「クロメダカ」は、見た目は普通のメダカでも飼育品種メダカの遺伝子を持っていると言われています。 野外に放された飼育品種メダカは「外来種」と言えます。飼育品種メダカは絶対に野外に放さず、水槽の中で楽しみましょう。



図 3−1. 和歌山県の水路で捕まえた楊貴妃メダカ



図 3-2. 堺市の池で捕まえた白い 幹之メダカ(左上)

「絶滅危惧種」という言葉もかつてより知れ渡ってきたのではないでしょうか。メダカ2種も環境省レッドリスト2019で絶滅危惧 II 類すなわち「絶滅の危機が増大している種」に指定されていますが、メダカにとっての危機は様々です。例えば、川の護岸がコンクリート化されることで植物が少なくなり、メダカが卵を産み付ける

場所がなくなります。都市化が進んで、水路そのものが埋め立てられてしまうこともあります。さらに、メダカに似た外来種カダヤシによって、メダカが住処を追いやられてしまった場所もあります(図4)。また飼育品種メダカや他の地域のメダカが放流されて、その地域固有ではない遺伝との野生メダカが見つかっています。こうして、人間が「めだかの学校」を危機を招いたのです。「めだかの学校」を守るには、メダカのことを理解した上で、メダカが生息できる環境を守ったり、外来種を駆除したり、飼育品種や他地域のメダカを放流しないなど、私達人間による保全活動が重要です。



図 4. 水路を泳ぐカダヤシの群れ

今回は私の大好きなメダカについてお話ししました。メダカは100年ほど前から現在に至るまで盛んに研究され、宇宙に行ったこともあります。また江戸時代の浮世絵に描かれたり、童謡に歌われたりと、メダカは生物学的にも文化的にも面白い魚です。ぜひこれをきっかけに、メダカに興味を持ち、更にメダカについて調べたり、メダカをはじめ野生の生き物を守る活動をしたりと、皆さまのメダカ愛が少しでも大きくなることを願っています。

参考文献

Asai, T., Senou, H. and Hosoya, K. (2011)

Oryzias sakaizumii, a new ricefish from
northern Japan (Teleostei:Adrianichthyidae).
Ichthyol. Explor. Freshwaters 22: 289-299.
岩松鷹司(2018)全訂増補版メダカ学全書.大学教育出版.

環境省(2019)環境省レッドリスト 2019. 辛川十歩,柴田武(1980)メダカの方言.未央社. 北川忠生,中尾遼平,中井宏施,入口友香(2017) 野生メダカの遺伝的多様性と飼育品種メダカの 遺伝的特徴.海洋と生物 229: 120-125.

Sato, H. (1989) Ecological studies on the mosquito fish, *Gambusia affinis* for encephalitis control with special reference to selective feeding on mosquito larvae and competition with the medaka, *Oryzias latipes*.

Japanese J. Trop. Med. Hyg. 17: 157-173.

(大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 森 彩華)

汽水ワンド周辺の陸生生物調査2

本誌前号では、近木川河口右岸につくられた汽水ワンドに隣接したソメイヨシノ等植栽地の植物と菌類を紹介しました。今回は昆虫とクモに関する調査結果を報告します。なぜ、"おまけ"のように陸生生物の調査を始めたのかと言うと、汽水域に生息するヒヌマイトトンボが確認できればとの思いからでした。

昆虫

約6年間の調査で265種を確認しました

が、外来種の割合は 2.6% (7種) となり、49.6%だった植物とは大違いです。265 種のほとんどは、どこにでも居ると言っていい、いわゆる普通種です。残念ながら 2019 年 3 月までの時点でヒヌマイトトンボは確認されませんでした。大阪府レッドリスト種としては、2014 年にヒメアカネ、2015年にドウガネブイブイ、2018年にマイコアカネとアキアカネ(図 1)が確認されました。いずれもランクは準絶滅危惧です。アカネ類は通過しただけだと思います。



図 1. アキアカネ ふ、2018年11月21日

調査地内の斜面に放置されている石の下では、トビイロシワアリ、アミメアリ、オオズアリなどが巣をつくり、トビイロシワアリの巣にはサトアリツカコオロギが生息しています(図2、本誌67号より再掲)。このサトアリツカコオロギのほか、2013年4月のオビデオゾウムシ、同6月のアカハネオンブバッタ、2015年5月のコヒラタゴミムシ、2016年8月のオオナガゴミムシが、自然遊学館の記録として、貝塚市内で最初に確認されたものとなりました。



図 2. サトアリツカコオロギ、2013 年 2 月 13 日

アカハネオンブバッタは、発見当初は臨海部から街中にかけての分布でしたが(本誌73号)、今では千石荘周辺でもオンブバッタよりも多数派になっています。本調査地でも、個体数が増えています。その他、個体数が増えているものとしては、キマダラカメムシが上げられます。2015年8月に最初の個体を確認し、1回の調査でもせいぜい1~3個体でしたが、2018年の夏には10個体以上が確認されるようになりました。

誌面が限られているのであまり多くは紹介できませんが、最後にクリオオアブラムシとツマキチョウ(図 3)の2種を紹介します。2014年12月に植栽のコナラ上にクリオオアブラムシが発生し、2015年4月まで確認され、その後、そのコナラは枯れてしまいました。ツマキチョウは幼虫がイヌガラシ、ナズナ、ダイコン、カラシナなどを摂食し、早春にだけ成虫が出現します。汽水ワンドの工事前から周辺で生息が確認されていました。水域を増やすと陸域が減るのは当然で、その影響を心配される方がいました。2015年と2016年の4月に確認され、2017年と2018年の春には確認さ

れていません。消長の原因は不明です。



図3. ツマキチョウ、2015年4月17日

クモ

アリグモ、アオオビハエトリ、キハダエビグモなどの徘徊性のクモが、植栽木の幹で確認される場合がほとんどでした。網を張るクモでは、ナガコガネグモ、チュウガタシロカネグモ、ジョロウグモ、オナガグモがわずかに確認されました。草上では2018年6月に徘徊性のササグモが確認されました。2018年4月に確認されたハラジロムナキグモは、これまで自然遊学館に標本がない種でしたが、普通種なので、当館の市内でのクモ調査が不十分なことの証明になっただけです。

備考:前号でも書きましたが、一般開放される予定の汽水ワンド本体とは違って、ソメイヨシノ等植栽地は、立ち入り禁止になっています。

謝辞:調査の手伝いをしていただいた澤田智子氏、 および一部のコウチュウ目の同定をしていただ いた澤田義弘氏と森康貴氏に謝意を表します。

(岩崎 拓・湯浅 幸子)

✓ 行事レポート

親子海釣り体験

日時:2019年10月19日(土)9:00~11:00

場所:貝塚市二色の浜突堤

参加者: 21人(うちスタッフ5人)

当日は朝から雨模様でしたが、ちょうど 行事の時間帯は雨の止み間となり、予定通 り実施できました。フィッシングショップ Tポートのご協力で、食野店長とスタッフ の方1名が講師としてお越しくださり、海 釣りの方法を参加者の皆さんに教えて頂 きました。

仕掛けは、天秤と呼ばれる重りをつけ、 餌となる青イソメや石ゴカイを針に掛けます。参加者の子供達は、突堤から海に向 かって竿を振り下ろす動作や、糸を巻くリ ールの扱いに初めのうちは手こずってい ましたが、そのうち上手にやれるようになっていきました(図 1)。

1 時間半ほど釣りを楽しんだ釣果は思いのほか多く、クサフグやマダイ、ウルメイワシ(図2)など計9種、41 匹をみんなで釣り上げることができました(表1)。



図 1. 二色の浜突堤での釣り



図 2. 釣れたウルメイワシ

表 1. 親子海釣り体験での釣果

<u>目名</u>	科名	和名	個体数
ニシン目	ニシン科	ウルメイワシ	3
		サッパ	1
スズキ目	タイ科	クロダイ	3
		マダイ	5
	シマイサキ科	コトヒキ	3
	サバ科	マサバ	4
フグ目	フグ科	クサフグ	20
		コモンフグ	1
		ヒガンフグ	1
			計 41

(山田 浩二)

海藻おしば作り

日時:2019年11月30日(土) 13:00~15:30

場所:自然遊学館多目的室

参加者:21人(うちスタッフ6人)

自然遊学館多目的室を会場にして海藻 おしば作りの行事を行うのは久しぶりで す。講師は、海藻おしば協会認定指導員の 河原美也子先生と前田ゆきみ先生です。

前田先生の生きものを題材にした作品を室内に展示し、その中で『ようこそ海の森へ』というビデオを見てもらいました。「海の森」というのは、海藻が光合成をすることと、生きものたちに住み場所を提供

することが、陸の森と同じであることを例 えた言葉です。



図1. 海藻おしば作り

河原先生の作品の紹介と、つくり方の説明の後、各自、海藻の形を生かした作品づくりに取り掛かりました(図1)。ひらめき、絵心、手先の器用さ、根気が必要です。2人の先生のアドバイスを受けながら時間内に参加者の個性的な作品が次々に出来上がっていきました。でも、頭の中が真っ白な自分には何もひらめかず、時間だけが過ぎていきました(^^; 同じテーブルに座った親子の作品を紹介します(図2)。



図 2. 海藻おしば作品の例

(岩崎 拓)

✓ 泉州生きもの情報

千石荘でオオキトンボを採集

2019年10月15日、台風19号の通過後で、変な生きもの(?)が飛来していないか、せんごくの杜に行きました。台風接近の前日に行った千石荘講座で撮影したタヌキマメ、ツリガネニンジン、ツルニンジンの画像がピンボケだったので、再チャレンジの意味もありました。

途中、貝塚市の橋本側で採集したオスのトンボが、ショウジョウトンボの未成熟個体とは少し違うと思い、持ち帰って調べるとオオキトンボ Sympetrum uniforme だと分かりました(図1)。もう1個体、別に目撃したので(オオキトンボと断定は出来ませんが)、偶然に飛ばされてきたものではない可能性もあります。



図 1. オオキトンボ(み)

自然遊学館の貝塚市のトンボ記録で 77種目、アカネ属で 14種目となったオオキトンボは、大きな開けた池沼にすむ種で、分布が極めて局所的なことから、大阪府レッドリストにおいて絶滅危惧 I 類に指定されています。山本 (2015) によると、「府

下では絶滅かと思われた時期があったが、 2012 年ごろから目撃例が増えてきている」 そうです。

貝塚市で確認されたアカネ属

(トンボ目トンボ科、自然遊学館の記録)

- 1. タイリクアカネ
- 2. ミヤマアカネ
- 3. ナツアカネ
- 4. スナアカネ
- 5. アキアカネ
- 6. ヒメアカネ
- 7. マイコアカネ
- 8. マユタテアカネ
- 9. リスアカネ
- 10. ノシメトンボ
- 11. コノシメトンボ
- 12. ナニワトンボ
- 13. ネキトンボ
- 14. オオキトンボ

ショウジョウトンボと似ている点は、体サイズのほか、体部にほとんど斑紋がないことです。違う点は、翅の付け根側がほとんど濃色にならないことや、腹部の中央部に少しくびれがあることです(図2)。貝塚市ではまだ確認されていないキトンボ(アカネ属)と違う点も、翅の付け根側が濃色にならないことがあげられます。



図2. オオキトンボ(♂)

自然遊学館の記録では、せんごくの杜で

絶滅危惧 I 類の昆虫が確認されたのは初めてで、その他、大阪府レッドリスト種は、 絶滅危惧 II 類が 5 種、準絶滅危惧 22 種となっています(昆虫以外も含めると、3 ランクで合計 52 種目です)。

引用文献・参考文献

大阪府(2014)『大阪府レッドリスト 2014』、48pp. 山本哲央(2015) 鉢ヶ峰寺周辺のトンボ相(4). 南大阪の昆虫 17;63-66.

山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明 (2009) 『近畿のトンボ図鑑』(いかだ社)、239pp.

(岩崎 拓)

二色の浜に打ち上げられた クラゲエボシ

2019 年 11 月 2 日の午前中、二色の浜で ビーチコーミングを行った際、波打ち際に 見慣れぬクラゲが打ち上がっていました (図 1)。正体を確かめようと、館に持ち帰 り、海水につけるとクラゲの傘に付いてい た複数の生きものたちが動き始めました。

襲脚と呼ばれる脚を扇のように広げては閉じるというフジツボ特有の行動が見られ、着生していたのはフジツボの仲間でエボシガイ科のクラゲエボシであることがわかりました(図 2)。名前のとおり、決まってクラゲに着生し、外皮は薄く透明で寒天質化し、内臓が透けて見えます。主にユウレイクラゲやオキクラゲに着生し、黒潮流域では普通に見られるようです。打ち上がっていたクラゲの方はすでに死亡し

ているようで触手が残っていなかったのですが、傘縁に 16 の切れ込みがあり、その形態から鉢虫綱ユウレイクラゲ科のユウレイクラゲに判断されました。両種とも自然遊学館の記録ではこれまで貝塚市の海岸で確認されておらず、初めての漂着となりました。

今回のユウレイクラゲには 1cm~5cm 程の大小のクラゲエボシがついており、調べるとユウレイクラゲの裏面に 17 個体、表面に 2 個体のクラゲエボシが着生していました (図 3)。エボシガイ類は一度基質に付着したら自分で生活の場を変えることはできません。クラゲの命が尽き、岸に打ち上げられると運命共同体であるクラゲエボシもまた死んでしまうと考えられます。

謝辞

共に調査を行いました澤田智子氏、山路登葉氏、 山路直紀氏に謝意を表します。

参考文献

岡田要(1988)『新日本動物図鑑(中)』、北隆館、 803pp.

久保田信(2014)『魅惑的な暖海のクラゲたち』、 紀伊民報、167pp.



図 1. 二色の浜に漂着した見慣れぬクラゲ (傘の直径約 20cm、2019 年 11 月 2 日)



図 2. クラゲエボシ



図 3. 19 個体のクラゲエボシが着生していた ユウレイクラゲ

(山田 浩二)

✓ 館長コーナー

自然遊学館から再度のお誘い "生涯学習"として一緒に始めませ んか? ~

『海の学び』

「海の学び」は、「海洋教育」=「<u>海に</u> 親しみ、海を知り、海を守り、海を利用す る学習を推進する教育」の一環となる事業 ととらえ、『海に親しみ、海を知る』こと、 そして『海を守り・海を利用する学習』を 実践していくものです。

今回の「海の学び」活動では、海水の中のプランクトンや他の海の生きものを調査したり、海辺の散歩で、浜辺の漂着ゴミを調べたりします。『生きものだいすきグループ』を募集しています。海の生きもの観察に興味を持ち実際に生きもの観察・調査し研究したいと思っている方々を募集しています。前号の館長コーナーでの呼びかけに続き2回目のお誘いです。

以下に、当館が行っている川や海の観察 活動を紹介させていただきます。

- ○河口付近と海の生きもの調査 活動期間と内容
 - ・4月~5月と9月~10月近木川のアコ調査(近木川下流域)
 - ・6月~7月ホタルの寝床調査(蓄原地区)
 - ・8月 アマモ場の調査 (二色の浜)
 - ・11 月と翌年 3 月 プランクトン調査(近木川河口付近)



2019年5月4日、近木川アユ調査の様子



2019年5月4日に確認されたアユ

- •11月~3月
 - 二色の浜漂着物調べ

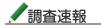
観察の活動日と時間

毎月第1第3土曜日10時から12時 漂着物調べは毎月第1土曜日10時から

調査はすべて自由参加ですが事前の申 し込みをしていただきます。

活動人数は数名からで構いません。生き もののことを知り、生きものへの理解を深 めてみませんか?

問合せ先 072-431-8457 自**然遊学館** (高橋 寛幸)



貝塚市二色の浜と 近木川周辺の鳥調査 15

今年も11月下旬にカモが飛来してくる 季節になり、数多くのカモが近木川河口で 見られるようになりました。去年より、多 くの種類のカモが見られています。

:	二色の浜公園周辺に	こおいて2019年10月~1	2月に観察さ	れた島類	
			10月	11月	12月
目	科	種	30日	20日	25日
カモ目	カモ科	ヒドリガモ		0	0
		カルガモ	0	0	0
		オナガガモ		0	0
		コガモ			0
		ホシハジロ			0
		スズガモ		0	0
		クロガモ			0
		ウミアイサ			0
ハト目	ハト科	キジバト	0	0	0
		ドバト	0	0	0
カツオドリ目	ウ科	カワウ	0	0	0
ペリカン目	サギ科	アオサギ	0	0	0
		ダイサギ	0	0	
		コサギ	0	.	
チドリ目	チドリ科	ダイゼン	0	0	
	シギ科	イソシギ	0		0
		ハマシギ			0
	カモメ科	ユリカモメ	0	.	
		ウミネコ	0	0	
		セグロカモメ	0	0	
タカ目	タカ科	トビ		0	0
	モズ科	モズ	0	0	0
スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	0	0	0
		ハシブトガラス		0	
	ヒバリ科	ヒバリ	0		
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	0	0	0
	メジロ科	メジロ		0	
	ムクドリ科	ムクドリ	0	0	
	ヒタキ科	ツグミ ジョウビタキ		0	0
		ジョウビタキ		0	
		イソヒヨドリ	0		0
	スズメ科	スズメ	0	0	0
	セキレイ科	ハクセキレイ	0	0	0
	アトリ科	カワラヒワ		0	0
		種数	20	24	23



ユリカモメ (二色の浜公園、2019 年 10 月 30 日)

ķ	丘木川河口周辺に	おいて2019年10月~1	12月に観察さ	された鳥類	
			10月	11月	12月
目	科	種	9日	13日	10日
カモ目	カモ科	オカヨシガモ			0
		ヒドリガモ		0	0
		マガモ		0	
		カルガモ	0	Ō	0
		ハシビロガモ		0	0
		オナガガモ	0	Ô	Ô
		コガモ	0	0	0
		ホシハジロ			Ō
		スズガモ			0
		クロガモ			Ō
カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ			0
ハト目	ハト科	キジバト	0	0	Ŏ
		ドバト	Ö	Ö	Ö
カツオドリ目	ウ科	カワウ	Ö	Ö	Ö
ペリカン目	サギ科	アオサギ	Ö	Ö	Ö
7732 [, , , , ,	ダイサギ	Ö	Ö	
		コサギ	Ö	0	0
ツル目	クイナ科	オオバン	ŏ		
チドリ日	チドリ科	ケリ	0	0	
/	71 717	ダイゼン		Õ	***************************************
		シロチドリ			0
	シギ科	オオソリハシシギ	0		
	2 1 117	キアシシギ	Ö		
		ソリハシシギ	ŏ		
		イソシギ	Ö	0	
		ハマシギ			0
	カモメ科	ユリカモメ			Ö
	73 67-14	ウミネコ	0	0	0
		セグロカモメ	ŏ	0	
タカ目	タカ科	トビ	0		
スズメ目	モズ科	モズ	ŏ	0	0
^^/6	カラス科	ハシボソガラス	ŏ	ŏ	ŏ
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	0	Ö	0
	メジロ科	メジロ	ļ	0	0
	ムクドリ科	ムクドリ	0	0	0
	ヒタキ科	ツグミ		0	0
	レメイヤ	ジョウビタキ		ļ <u>V</u>	0
		インヒヨドリ			0
	スズメ科	カンピョトリ スズメ	0		
		ハクセキレイ		0	0
	セキレイ科		0	<u> </u>	
	71 미원	セグロセキレイ	<u> </u>	0	
	アトリ科	カワラヒワ	0	0	0
		種数	27	27	30



オカヨシガモ (近木川河口、 2019 年 12 月 10 日)

(鈴子 勝也)

✓ ホームページ

自然遊学館 HP-昆虫 4

今回は、貝塚市で確認されたトビケラ目 を紹介します。トビケラ目は進化的にはチョウ目と近く、多くのガと同じように、成 虫は翅を折りたたんで止まります(図 1、2)。



図1. ゴマフトビケラ♀の標本 貝塚市千石荘産、1994年7月2日採集



図2. ヤマガタトビイロトビケラ 和泉葛城山、2006年11月12日

幼虫は水生で、カゲロウ目、トンボ目、カワゲラ目とともに、水生昆虫の大きなグループの一角を占めます。多くの幼虫は、糸をはいて、葉の小片や、砂・小石を綴り合せ、それぞれの種に特徴的な巣を作ります(図 3)。幼虫は水の中で生活し、成虫はガと同じく夜行性のものが多いので、一般的には知名度が低いかもしれません。本誌の登場したのも 2006 年の第 38 号だけだったりします。



図3. マルバネトビケラ属の一種 貝塚市馬場柜谷川、2006年1月25日

自然遊学館では、1997年から約10年間、 近木川、津田川、見出川の水生昆虫を調べました(例えば、岩崎・山田、2006)。また、2005年と2007年に青柳正人氏とともに、近木川上流で水生昆虫のライトトラップを行いました(青柳・岩崎、2009、2010)。その他、別の調査時に散発的に採集された標本を加えて、現時点でのリスト(26科67種)を作成しました。

ナガレトビケラ科

ヒロアタマナガレトビケラ クレメンスナガレトビケラ レゼイナガレトビケラ ミジカオナガレトビケラ トランスクィラナガレトビケラ ムナグロナガレトビケラ ヨシイナガレトビケラ カワリナガレトビケラ科 ツメナガナガレトビケラ

ヒメトビケラ科

*Hydroptila*属

ヤマトビケ<u>ラ科</u>

アルタイヤマトビケラ イノプスヤマトビケラ

ヒゲナガカワトビケラ科

ヒゲナガカワトビケラ

<u>カワトビケラ科</u>

ツダコタニガワトビケラ ミミタニガワトビケラ タニガワトビケラ キソタニガワトビケラ ツダタニガワトビケラ ナベワリタニガワトビケラ Wormaldia rara

<u>クダトビケラ科</u>

モリシタクダトビケラ *Tinodes aonensis*ヒガシヤマクダトビケラ
ミヤコクダトビケラ

キブネクダトビケラ科

クロクダトビケラ キブネクダトビケラ

イワトビケラ科

Neureclipsis属 キソイワトビケラ オンダケミヤマイワトビケラ

<u>アミメシマトビケラ科</u>

アミメシマトビケラ

<u>シマトビ</u>ケラ科

ガロアシマトビケラ ナミコガタシマトビケラ Diplectrona aiensis キブネシマトビケラ オオシマトビケラ シロズシマトビケラ オオヤマシマトビケラ ウルマーシマトビケラ

マルバネトビケラ科

マルバネトビケラ

<u>トビケラ科</u>

ゴマフトビケラ

カクスイトビケラ科

ハナセマルツツトビケラ マルツツトビケラ

カクツツトビケラ科

ファービックロー コカクツツトビケラ カスガカクツツトビケラ クマノカクツツトビケラ サトウカクツツトビケラ オオカクツツトビケラ

エグリトビケラ科

ウスバキトビケラ ホタルトビケラ ヤマガタトビイロトビケラ

コエグリトビケラ科

コエグットレグ ノ科

ヒラタコエグリトビケラ *Apatania* 属 コガタクロバネトビケラ

<u>クロツツトビケラ科</u>

クロツツトビケラ ニンギョウトビケラ科

ニンギョウトビケラ

<u>ヒゲナガトビケラ科</u>

ナガツノヒゲナガトビケラ カモヒゲナガトビケラ アオヒゲナガトビケラ ハモチクサツミトビケラ チビセトトビケラ

<u>ホソバトビケラ科</u>

ホソバトビケラ
アシエダトビケラ科
クチキトビケラ属
コバントビケラ属
コバントビケラ科
フタスジキソトビケラ
ヨツメトビケラ
ケトビケラ科
Gumaga 属
カタツムリトビケラ科
Helicopsyche 属
ツノツツトビケラ
ッノツツトビケラ

引用文献 · 参考文献

青柳正人(2006) 近木川の水生昆虫 5:カタツム リトビケラ.自然遊学館だより No.38:15-16. 青柳正人・岩崎 拓(2009) 本谷のトビケラ類. 貝塚の自然第11号:99-108.

青柳正人・岩崎 拓 (2010) 東手川のトビケラ類. 貝塚の自然第 12 号: 29-40.

岩崎 拓・山田浩二 (2006) 近木川の水生昆虫WII. 貝塚の自然第8号: 24-77.

(岩崎 拓)

✓ 寄贈標本

<魚類>

- ◆川口博さんより ゴンズイ 打上げ死体 1 点 貝塚市二色の浜 2019 年 11 月 9 日採集
- ◆食野聡志さんより アイナメ 生体 1 点 貝塚市二色運河 2019年 12月 11日採集

<軟体動物>

◆五藤武士さんより オオクビキレガイ 殻1 高石市千代田 2019年10月27日採集 ◆川口博さんより カラスキセワタ 打ち上げ生体 3 点 貝塚市二色の浜 2019 年 11 月 4 日採集 (うち1点は、きしわだ自然資料館へ移管)





カラスキセワタ

自然遊学館のリストでは貝塚市の海岸で 初記録種となりました。

- ◆岩元ゆりこさんより アケボノキヌタ 打ち上げ殻1点 貝塚市二色の浜 2019年12月19日採集
- ◆岩本恵子さんより フデガイ 打ち上げ殻1点 貝塚市二色の浜 2019年12月19日採集
- ◆河添純子さんより ネズミノテ 打ち上げ殻1点 貝塚市二色の浜 2019年12月19日採集

<類線形動物>

◆常道武士さんより

Chordodes 属の一種 生体 2 点

貝塚市澤 2019 年 10 月 5 日採集

<節足動物>

◆川口博さんより クロベンケイガニ 生体 1 点 近木川河口 2019年10月2日採集 ケフサイソガニ 生体14点 近木川河口 2019年10月6日採集

くクモ>

◆常道武士さんより ヤハズハエトリ 幼体1点 貝塚市澤 2019年12月30日採集

<昆虫>

- ◆常道武士さんより クモヘリカメムシ 成虫1点 貝塚市澤 2019年10月9日採集
- ◆五藤武史さんより ホシヒメホウジャク 成虫 1 点 高石市高師浜 2019 年 10 月 15 日採集 クモガタテントウ 成虫 1 点 高石市高師浜 2019 年 10 月 16 日採集 クロマダラソテツシジミ 成虫 1 点 高石市千代田 2019 年 10 月 28 日採集
- ◆川口博さんより モンシロチョウ 成虫 2 点 キタテハ 成虫 1 点 和歌山県有田市 2019年 10 月 20 日採集
- ◆山口隼平さんより ウスアオリンガ 成虫 1 点 貝塚市千石荘 2019 年 12 月 13 日採集

<腕足動物>

◆河添純子さんより スズメガイダマシ類 打ち上げ殻1点 貝塚市二色の浜 2019年12月19日採集

<寄贈写真>

◆覚野良子さんより テイショウソウ 1 枚 フデリンドウ 2 枚 ミカエリソウ 3 枚 和泉葛城山 2019 年 9 月 29 日撮影

アケボノソウ 3枚 ホウライカズラ 1枚 和泉葛城山 2019年10月14日撮影 イズミカンアオイ 1枚 シラキ 1枚 ツルリンドウ 1枚 ミカエリソウ 1枚 ミヤマハハソ 1枚 ソウシチョウ 1枚 和泉葛城山 2019年10月20日撮影 センボンヤリ 2枚 メギ 1枚 ほか 1枚 和泉葛城山 2019年10月26日撮影 キッコウハグマ 2枚 貝塚市木積 2019年11月3日撮影 キッコウハグマ 6枚 貝塚市木積 2019年11月4日撮影



キッコウハグマ (貝塚市木積、2019年11月4日、 覚野良子さん撮影)

センブリ 4枚 和泉葛城山 2019年11月4日撮影 リンドウ 1枚 ヌマダイコン属 3枚 ほか2枚 貝塚市蕎原 2019年11月10日撮影 コシアブラ 1枚 コハウチワカエデ 1枚 タンナサワフタギ 1枚 ツリバナ 1枚 テイショウソウ 1枚 ナギナタコウジュ 1枚 ミヤマナルコユリ 1枚 ほか7枚 和泉葛城山 2019年11月10日撮影

覚野良子さんには、この他、貝塚市外の 植物画像を寄贈していただきました。

◆藤村雅志さんより クロガモ幼鳥 2枚 貝塚市二色の浜 2019年10月24日撮影 クロガモ幼鳥 1枚 貝塚市二色の浜 2019年10月26日撮影



クロガモ幼鳥 推定♀ (貝塚市二色の浜、2019 年 10 月 26 日、 藤村雅志さん撮影)

カルガモ寄りのカルガモ×マガモ (バフ変個体*) 2 枚 近木川河口 2019年12月9日撮影 クロガモ幼鳥 1 枚 貝塚市二色の浜 2019年12月10日撮影 クロガモ幼鳥 3 枚 貝塚市二色の浜 2019年12月24日撮影

- * 藤村雅志さんには、カルガモとマガモの雑種 を見分ける方法を示した図版も寄贈していた だきました。
- * バフ変:全身が色素過少のために黄土色に近い色(バフ色)になること。完全白化するアルビノとは異なります。
- ◆川口博さんより ナルトビエイ 死体 1 点 貝塚市二色の浜突堤 2019 年 11 月 10 日撮影



ナルトビエイ

◆藤原颯太さんより トラフグ 生体1点 貝塚市二色運河 2019年11月11日撮影



トラフグ

<目撃情報>

◆福島秀人・沖原均さんより タヌキ ため糞1ヵ所 貝塚市二色 2019年11月27日目撃

<展示用>

◆常道武士さんより アカハネオンブバッタ 成虫 1 点 貝塚市澤 2019年10月16日採集 アカハネオンブバッタ 成虫 4 点 貝塚市澤 2019年11月7日採集 クビキリギス 成虫 1 点 貝塚市澤 2019年12月13日採集 ハラビロカマキリ 成虫 1 点 貝塚市澤 2019年12月14日採集 ツチイナゴ 成虫 1 点

貝塚市澤 2019年12月22日採集

✓ スタッフ日誌

10月24日、浜手公民館主催のシルバーライフ講座を当館で行いました。今回は地域の生きものを紹介するのをテーマにしたもので、貝塚市の海辺(今昔)や野鳥についてお話をしました。シニア世代の方々の熱心で積極的な姿勢は、学ばせて頂きたく思いました。(山・鈴)

11月7日、自然遊学館 HP の「貝塚市の自然」ページの分類別で、ようやく昆虫のページをアップしました。2012年の前回のリニューアル時に情報管理担当の方に「作ります」と言ってから7年が過ぎてしまいましたm(__)m。昆虫の各グループの特徴とリストが中心です。写真に関しては少し

しか載せていないので、エリア別ページの 方の昆虫ページをご覧ください。(岩)

11月17日、貝塚市葛城緑の少年団と一緒に、クリーンハイクとして、和泉葛城山 B コースを登りました。快晴かつ、暑すぎず寒すぎず、絶好の登山日和でした。あらかじめブナの葉やドングリを紹介したプレートを配り、ブナの葉を拾ったりして、ブナ林周辺の紅葉も楽しみました。(山・岩)

12月23日、ミッション用のガチャガチャBOXを4代目にリニューアルしました。今回は、カタツムリの殻をぐるぐる回すとミッション入りガチャケースが落ちてくる仕組みです。子供たちの好奇心パワーに負けないよう頑丈に作ったつもりですが、なにせ手作りですので半年もつかどうか。。。でも、来館者の皆さんが楽しんでくれたら嬉しいです!次はどんなガチャ作ろうかな。(澤)

自然遊学館だより 2020 冬号 (No. 94)

貝塚市立自然遊学館 〒597-0091

> 大阪府貝塚市二色 3 丁目 26-1 Tel. 072 (431) 8457

> > Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/

発行日 2020.2.8

この小冊子は庁内印刷で作成しています。